

## 女性のヘルスリテラシーと意思決定

聖路加国際大学保健医療社会学・看護情報学

中山 和弘

ヘルスリテラシーとは、健康情報を入手し、理解し、評価し、活用できる力であり、情報に基づいた意思決定が行えることを目指した概念である。それは、情報格差によって健康格差が生み出されていること、その情報格差が社会的な要因によってもたらされていることを背景としている。したがって、健康の社会的決定要因に働きかけて社会を変化させるというヘルスプロモーション活動においても、人々が持つべき不可欠な力となってきた。女性の健康を考えた場合、情報を知る権利も意思決定権も、女性という理由で十分ではないという場面がないかについて検証し、是正していく必要がある。ヘルスリテラシーには、健康情報の理解といった基本的なリテラシーだけでなく、科学リテラシー、市民リテラシー、文化リテラシーも含まれる。その点でも、女性に対する科学との親和性についての偏見や、市民社会への参加、多様な文化に触れる機会などで不利な状況に陥っていないかを批判的に見る必要がある。

世界のヘルスリテラシーへの取り組みでは ICT による取り組みが進みつつある。日本においても他の先進国並みにソーシャルメディアなどのニューメディアへの信頼性をより高められれば、個別性の高い健康情報を共有できる人と人とのつながりを増加させることができる。そのためには、メディアリテラシーを高めることだけでなく、女性がそれをエンパワーメントのためのツールだと考え、ジェンダーの問題を克服し発言するコミュニティをつくりだすチャンスだと認識する必要がある。ヘルスリテラシーは、自分の健康のためにいちばん適した行動を選べる力であり、それがあかないかで健康が決定される時代になってきているため、「健康を決める力」と呼ぶことができる。